

令和 5 年 6 月 28 日現在

機関番号：34410

研究種目：基盤研究(A)（一般）

研究期間：2020～2022

課題番号：20H00089

研究課題名（和文）東アジアにおける健康と社会の持続可能性に関する総合的研究

研究課題名（英文）Survey Research on Health and Social Sustainability in East Asian Societies

研究代表者

岩井 紀子（Iwai, Noriko）

大阪商業大学・総合経営学部・教授

研究者番号：90223362

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 35,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、東アジア社会調査（EASS）2021健康モジュールを含む日本版総合的社会調査JGSS-2021H/2022Hを実施して、国際統合データ（有効回答数は日本3081、韓国1205、中国2717、台湾1604）を作成している。2010年に実施したEASS 2010からの健康状態の変容をとらえた。いずれの社会でもコロナ禍において主観的健康感は低下せず、慢性疾患の有無は、韓国はほとんど変わらず、日本と台湾で若干増加した。2000年から継続して実施しているJGSSの累積データと合わせて時系列分析を行い、節電行動や原発への意識等を含む、社会の持続可能性に関わる人々の意識と行動を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

EASS 2010と2021のデータは東アジアの人々の健康状態の変容を明らかにし、JGSS累積データ2000-2022は、日本人の意識と行動の変容を明らかにする。WAPOR Asia Pacific Conference、東アジア社会調査シンポジウム、国際社会学会世界社会学会議などで報告し、海外の研究者にデータを紹介している。JGSSダウンロードシステムとICPSRから公開することで、多様な分野でデータが活用され、研究の深化が進む。EASS 2010を含むJGSS-2010は、2023年3月末までに45,124件の利用があり、少なくとも図書26、論文115、研究報告128以上を生み出した。

研究成果の概要（英文）：This research conducted the 2021/2022 Japanese General Social Survey which included the 2021 East Asian Social Survey Health module, and creating harmonized international data. Valid responses were 3081 in Japan, 1205 in Korean, 2717 in China, and 1604 in Taiwan. The research examined changes in health by comparing the EASS 2021 data with the EASS 2010 data. In all societies, self-rated health has not worsened during the COVID-19 pandemic. Prevalence rates of chronic diseases did not change over the ten years in Korea, and the rates slightly increased in Japan and Taiwan. Combining the data with the Japanese General Social Survey cumulative data file since 2000, the research also explored the perceptions and behaviors on sustainable society, including conservation of electricity and attitudes toward nuclear power.

研究分野：社会学

キーワード：健康 東アジア 日本版総合的社会調査 国際比較調査 COVID-19 JGSS EASS ESS

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

本研究で比較対象とする韓国・中国・台湾は、互いに干渉しながら各々の経済発展の道筋を辿ってきた（岩井・上田 2011）。4つの社会はいずれも、異なる政治状況で短期間に工業化、都市化、経済発展を遂げた。Compressed Modernity (Chang 2010) により、少子高齢化が先鋭的な形で現れ、少子化は韓国と台湾で、高齢化は日本で顕著である。また、いずれの社会においても、平均寿命と健康寿命が延び、両者の差は縮小しつつあり、慢性疾患の罹患率も減少傾向にあるが、産業発展段階の違いから、健康状態および社会環境の変容のスピードは異なっている。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、東アジアの4つの社会—日本・韓国・中国・台湾—における人々の健康状態および健康に関連する社会環境を比較することである。韓国・中国・台湾と共同で2010年に実施した「East Asian Social Survey 2010 健康モジュール」のデータと比較できる形で、EASS 2021 健康モジュールを含む日本版総合的社会調査JGSS-2021HとJGSS-2022Hを実施した。健康寿命への関心が高まるなか、日常的活動に関する新たな指標（歩行や睡眠など）を加えて、主観的健康、心身の機能、社会環境の10年の変化をとらえ、健康に寄与する要因を深化させた。また、日本独自の研究課題として、社会の持続可能性に関わる人々の意識と行動—所得の再分配、育児・高齢者の介護責任、自然災害リスク認知、地域の対応力・存続可能性、再生可能エネルギーの利用、原発政策—のデータを収集し、JGSS累積データ2000-2018と合わせて分析した。JGSSのデータは、日本学術振興会「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業」で構築したJGSSデータダウンロードシステムでメンバーに配布した。

## 3. 研究の方法

韓国・中国・台湾の研究チームと共に、2018年10月に大阪で開催した会議以降、健康科学・社会疫学などの専門家を加えて、EASS 2010 健康モジュールの設問を見直した。日本チームは2019年4月にEASS 2020を含むJGSS-2021Hの研究課題を公募した。2019年8月の北京会議で、4チームの案を協議して、健康モジュールの設問の継続・修正・削除案を固めた。2020年1月の大阪会議では、新たな研究課題について議論を重ねて、健康モジュール2021を確定した。日本チームが提案した①日常的な身体活動（平日の歩行時間・座っている時間、中程度以上の運動）と②睡眠の質・時間、中国チームが提案した近視の割合、韓国チームが提案した東洋医学ならびに健康の意義が採用された。

日本チームは、2020年度「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業（日本版総合的社会調査共同研究拠点）機能強化支援」を得たので、JGSS-2021HとJGSS-2022HはJGSS-2003/2006～2012と同様に、留置調査票を2種類作成し、調査対象者の半数には留置A票（European Social Survey<ESS>との比較）、残りの半数には留置B票（EASS 2021）を組み込んだ。

データの比較のために継続性を重視して、EASS 2010にも含まれたSF-12を再び組み込んで、2009年に認定NPO法人健康医療評価研究機構が開発した「SF健康調査票 SF-12v2<sup>TM</sup>」をライセンス契約して使用した。具体的には、「主観的健康状態」「身体的健康の問題」「精神的健康の問題」「痛みによる仕事の困難」「健康問題からくる人づきあいの困難」設問を、健康関連QOL（Health-related Quality of Life）の指標として利用している（吉野・岩井, 2021）。

2020年1月以降、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の世界的大流行の状況を踏まえて、JGSS-2021Hと2022Hには、COVID-19に関連する設問を加えた。具体的には、「新型コロナウイルス感染への不安」「感染リスク」や「感染拡大防止か経済活動か」「行動追跡かプライバシーか」「国境封鎖の重要性」「移動制限」といった政府の感染政策に対する評価、「政府の対応への評価」「新型コロナウイルス感染の責任帰属」などの設問を加えた。

表1 各国・地域が実施した調査の概要

	日本		韓国	台湾	中国
	JGSS-2021H	JGSS-2022H	KGSS 2021	TSCS 2021	CGSS 2021
実施時期	2021年1-3月	2022年1-2月	2021年8-11月	2021年9-2022年4月	2021年6-9月
調査方法	留置法		面接法	面接法	面接法
調査対象	20～89歳の男女		18歳以上の男女	18歳以上の男女	18歳以上の男女
抽出方法	層化2段 無作為抽出		層化4段 無作為抽出	層化3段 無作為抽出	層化4段 無作為抽出
調査票	A票	B票	A票	B票	-
計画標本	3,300	3,300	3,000	3,000	-
有効回答数	1,722	1,500	1,564	1,581	1,205
回収率	57.5%	59.2%	57.1%	57.9%	50.2%
					35.9%
					67.6%

2021年1月に全国20～89歳の男女6,600人を対象としてJGSS-2021Hを実施し、2022年1月に全国20～89歳の男女6,000人を対象としてJGSS-2022Hを実施した。韓国・中国・台湾では、それぞれの研究チームがプリテストを実施した上で、本調査を実施した（表1）。収集した回答を基に、各チームがデータファイルを作成して、クリーニングと国際標準職業分類のコーディングを終えた後、日本チームが国際統合データを作成している。2023年4月に韓国のデータと台湾のデータが届き、2023年6月中旬時点では、中国のデータは届いていない。4つのデータがそろい次第、EASS 2021国際統合データのクリーニングを開始し、2024年度中に公開する予定である。

JGSS-2021Hの特別利用データは2022年4月、JGSS-2022Hの特別利用データは2022年12月にJGSSデータダウンロードシステムから公開した。また、JGSS-2021Hの基礎集計については、2023年3月に『日本版 General Social Surveys 基礎集計表・コードブック JGSS-2021H』を刊行した。JGSS-2022Hの基礎集計については、2024年3月に刊行予定である。

#### 4. 研究成果

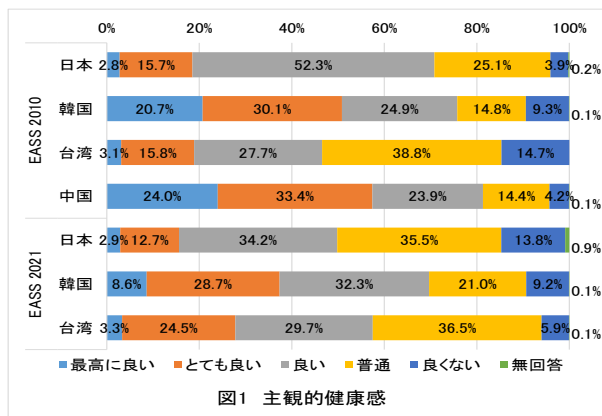
##### (1) EASS 2010 と EASS 2021 の比較

2010年と2021年のデータにおける回答者の基本属性は、表2のとおりである。日本は調査対象を89歳までとしているので、本報告書では20～89歳に限定して、日本、韓国、台湾を比較する。2010年と2021年の間に、日本では回答者の基本属性に、とくに大きな違いはみられないが、韓国では平均年齢が7歳近く上昇し、台湾では約3歳上昇し、人口構成の変化が顕著である。教育年数の平均については、韓国ではほとんど違いがみられないが、日本と台湾では伸びている。日本では男女とも約0.5年、台湾では男性は0.8年、女性は1.5年長くなった。

表2 回答者の属性（20～89歳に限定）

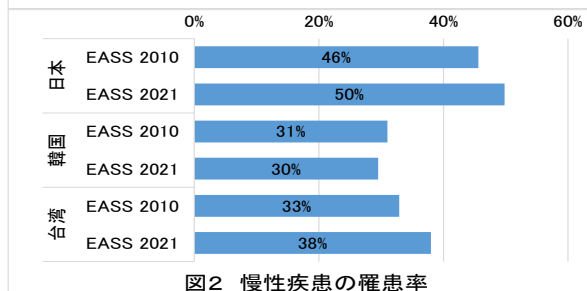
	EASS 2010				EASS 2021				
	日本	韓国	台湾	中国	日本	韓国	台湾	中国	
有効回答数	2,496	1,523	2,124	3,798	3,381	1,191	1,583	-	
平均年齢	53.7	45.9	47.4	47.6	55.3	52.6	50.3	-	
性別(女性)	54%	53%	51%	52%	51%	58%	53%	-	
教育年数	男性	12.8	12.7	12.2	9.1	13.4	12.2	13.0	-
	女性	12.4	11.2	10.6	7.8	12.9	11.4	12.1	-

##### ① 健康に関する継続設問

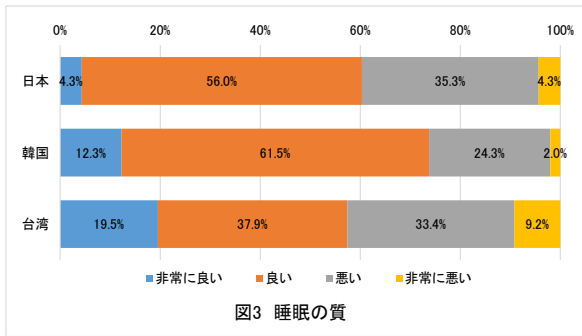


EASS 2010とEASS 2021のテーマである「健康」に関する10年間の変化について、まず、継続設問（主観的健康感、慢性疾患など）を中心に基礎的な研究結果を示す。主観的健康感については、EASS 2010では、もともと英語で作成されている当該設問の選択肢を、各チームがそれぞれの言語に翻訳する過程で、訳が不統一になってしまった。そこで、EASS 2021では、4チームが英語の選択肢を改めて訳し直した。台湾は選択肢の訳を変えていないので、2010年と2021年を比較することが出来るが、日本と韓国は、両者を直接比較することはできない。2021年に、健康状態が良い（「最高に良い」「とても良い」「良い」の合計）と回答した人の割合は、韓国では69.6%、台湾では57.5%で、日本では49.8%と5割を切っており最も低い。台湾に着目すると、2010年には46.6%であったので、2021年までの10年あまりで約10ポイント増えている。

次に、客観的健康指標となる慢性疾患の罹患率をみると、韓国ではこの10年間でほとんど変わらない。一方、日本では46%から50%に、台湾では33%から38%に、若干増加している。



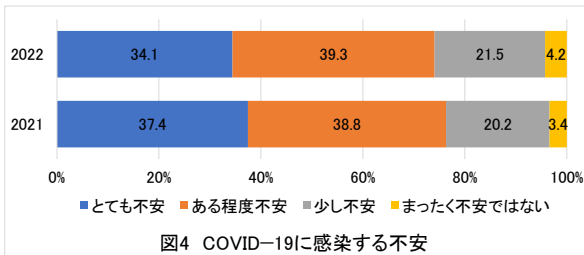
## ② 健康に関する新規設問



EASS 2021 モジュールには、睡眠の質に関する設問を加え、「非常に良い」から「非常に悪い」の4件法で尋ねている。日本では良いと回答した人の割合は60.3%（非常に良い4.3%+良い56.0%）、韓国では73.8%、台湾では57.4%で、いずれの社会も5割を超えている。日本と台湾は同程度であるが、韓国は日本と台湾よりも10ポイントも高い。

前述の結果を踏まえて、主観的健康感、慢性疾患の罹患率、睡眠の質について、いずれの指標も韓国がもっとも良好であることが示唆された。今後、これらと他の健康に関する意識や行動を合わせた分析に踏み込みたい。

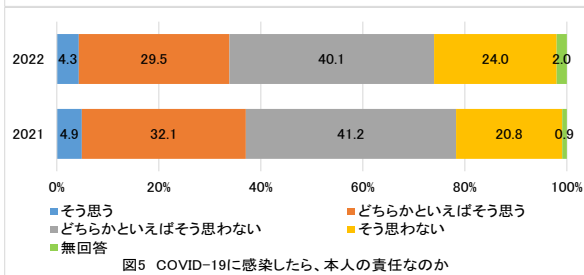
## ③ 日本における COVID-19 に関する設問



以下は、日本に限定した結果である。

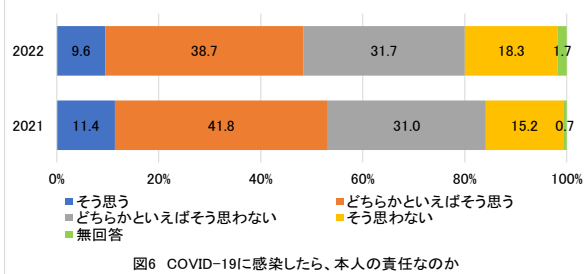
### <COVID-19 に感染する不安感>

COVID-19 に感染する不安感については、2021年1月に76.2%（37.4%がとても；38.8%がある程度）、2022年1月に73.4%（34.1%がとても；39.3%がある程度）が不安を感じており、わずか3ポイントしか減少しておらず、依然として高い水準であった。



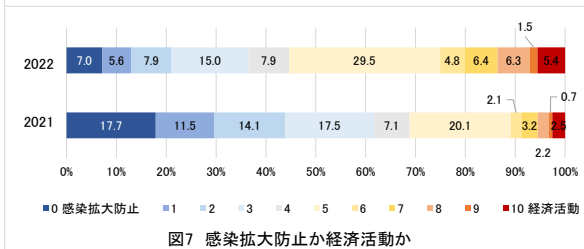
### <感染は本人の責任なのか>

一般論として、「COVID-19に感染した人は、本人の責任だ」と思う人の割合は、COVID-19第3波の真最中にある2021年1月時点で37.0%（そう思う4.9%；どちらかといえばそう思う32.1%）、COVID-19第6波の真最中にある2022年1月時点では33.8%であった。一方、「あなたが感染してしまったら」という質問に対して、自己責任だと回答した割合は、2021年1月時点では5割を上回る53.2%（そう思う11.4%；どちらかといえばそう思う41.8%）であったが、2022年1月時点で48.3%と5割を下回ったが、自らに厳しい傾向は続いている。

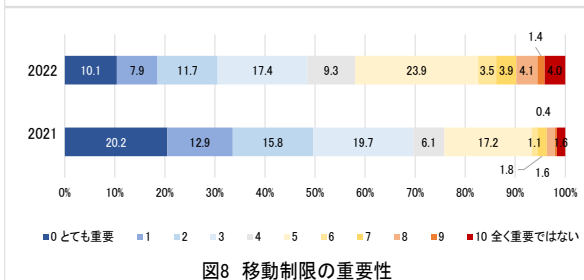


### <政府の政策に対する意識>

JGSS-2021HとJGSS-2022Hでは、政府の感染対策への意見についても尋ねている。「感染拡大防止と経済活動のどちらを優先すべき」については、2021年1月時点では、どちらともいえないにあたる「5」の回答は20%で、感染拡大防止を優先する（0～4）が68%を占め、経済活動を優先する（6～10）は11%にすぎない。2022年1月時点では、どちらともいえないにあたる「5」の回答は30%で、感染拡大防止を優先する（0～4）が43%を占め、経済活動を優先する（6～10）は24%であった。感染拡大防止を優先する割合は25ポイント減少し、経済活動を優先する割合が13ポイント増加した。



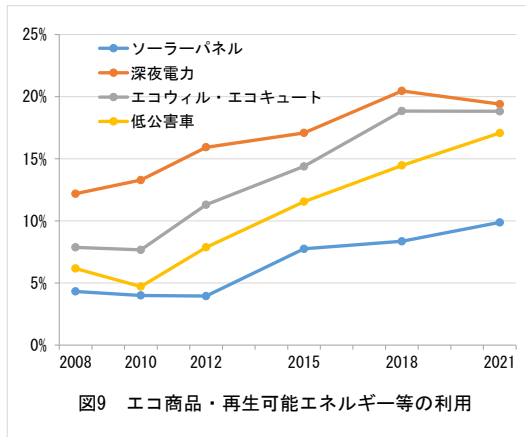
「移動制限の重要性」については、2021年1月時点で、どちらともいえないは17%、制限することが重要であると考える人は75%を占め、重要でないと考える人は7%に過ぎない。2022年1月時点では、どちらともいえないは14%、制限することが重要であると考える人は75%、重要でないと考える人は17%であった。重要であると考える人が約20%減少したが、依然として過半数を超えていた。



## (2) JGSS 累積データによる分析

JGSS では、節電行動に関しては 2002 年の調査から、再生可能エネルギーに関しては 2008 年の調査から、原発政策への意見については 2012 年の調査から、設問を取り入れてデータを収集している。これらの設問に対する回答の推移をみることで、人々の環境に関する意識や行動についての変化を検討することができる。

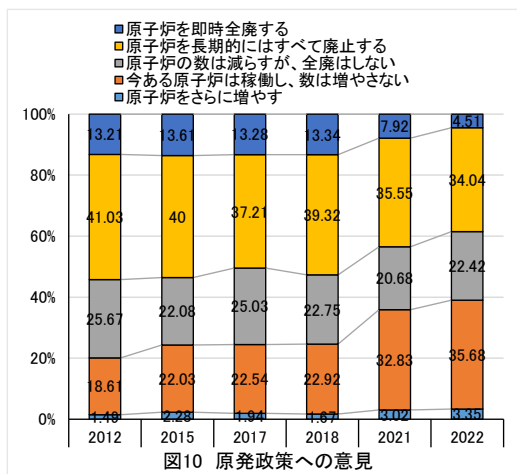
### ① 節電行動と再生可能エネルギーの利用



節電行動に関しては、「電気をこまめに消す」習慣は、東日本大震災の前から日本に根付いていた。2002年の時点で84.7%が「こまめに」（よく47.8%+時々36.9%）消していた。2008年は89.2%、2012年は90.0%、2015年は88.2%、2018年は87.8%で、2021年は88.8%、2022年は88.9%で、ほとんど変化はない。JGSS-2012以降は、消費電力を積極的に減らす工夫—照明を間引く、冷房の設定温度を上げる、日よけを活用する、扇風機に切り替える—についても尋ねている。東日本大震災後には多くの人が取り組み、2012年は76.3%（よく30.8%+時々45.5%）であったが、2015年は73.9%、2018年は71.4%、2021年は74.2%、2022年は73.9%で微増している。

再生可能エネルギーの利用については、JGSS-2008以降、ソーラーパネル、深夜電力、エコウィル・エコキュートと低公害車の自宅における利用の有無について尋ねている。エコウィル・エコキュートと低公害車の利用については、緩やかに増加している。一方、ソーラーパネルと深夜電力については、2018年までは増加傾向であったが、2021年ではほぼ横ばいとなっている（図9）。

### ② 原発政策への意見



原発政策への意見に関しては、「原発全廃」派が、2012年は54.2%（即全廃13.2%+長期的にはすべて廃止41%）、2015年は53.6%、2017年は50.5%、2018年は52.7%と過半数を超えていたが、2021は43.5%、2022年は38.6%と5割を下回っており、減少傾向がみられた。一方、「現状維持」派（稼働し、数は増やさない）は、2012年は18.6%であったが、2022年には35.7%と約2倍に増加した。

以上のように、EASS 2010とEASS 2021の比較およびJGSS 累積データから、東アジアにおける人々の健康状態および健康に関する社会環境の変容や、日本国内での社会の持続可能性にかかわる人々の意識と行動の変化についての分析が可能になった。また、コロナ期間中に、2年連続でCOVID-19に関連する設問を組み込んで調査を実施したことで、COVID-19が人々の生活や健康への意識と行動に与える影響を検討することが可能になった。EASS 2021のデータは、2024年度中に一般公開する予定である。大阪商業大学JGSS研究センターが構築したJGSSデータダウンロードシステムに掲載するとともに、海外のアーカイブにも寄託する。幅広い研究分野にかかわる国際比較が可能なデータを提供することで、さらに多くの研究者による2次利用が可能となる。

### 引用文献

- 岩井紀子・上田光明編 2011『データで見る東アジアの文化と価値観—東アジア社会調査による日韓中台の比較2』ナカニシヤ出版
- Chang, K. S. (2010). South Korea under Compressed Modernity: Familial Political Economy in Transition. Routledge: New York.
- 吉野智美・岩井紀子(2021). EASS 2020 Health Module の作成. 日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集, 19, 51-62.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計37件（うち査読付論文 26件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 33件）

1. 著者名 岩井紀子・林萍萍	4. 巻 26
2. 論文標題 コロナ禍における日本人の不安感と政策に対する評価 - 日本版総合的社会調査JGSS-2021から -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学術の動向	6. 最初と最後の頁 18-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5363/tits.26.12_18	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金政芸	4. 巻 20
2. 論文標題 日本人の対外意識の構造 - JGSS-2017G/2018Gを用いた外国人に対する社会的距離の潜在クラス分析から -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本版総合的社会調査共同研究拠点 研究論文集	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Machida Masaki, Nakamura Itaru, Saito Reiko, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, Takamiya Tomoko, Odagiri Yuko, Fukushima Noritoshi, Kikuchi Hiroyuki, Amagasa Shiho, Kojima Takako, Watanabe Hidehiro, Inoue Shigeru	4. 巻 2
2. 論文標題 Survey on usage and concerns of a COVID-19 contact tracing application in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Public Health in Practice	6. 最初と最後の頁 100125-100125
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.puhip.2021.100125	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Machida Masaki, Nakamura Itaru, Kojima Takako, Saito Reiko, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, Takamiya Tomoko, Odagiri Yuko, Fukushima Noritoshi, Kikuchi Hiroyuki, Amagasa Shiho, Watanabe Hidehiro, Inoue Shigeru	4. 巻 17
2. 論文標題 Trends in COVID-19 vaccination intent from pre- to post-COVID-19 vaccine distribution and their associations with the 5C psychological antecedents of vaccination by sex and age in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Human Vaccines & Immunotherapeutics	6. 最初と最後の頁 3954-3962
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/21645515.2021.1968217	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 星玲奈・菊池宏幸・町田征己・高宮朋子・小田切優子・福島教照・天笠志保・林俊夫・井上茂	4. 巻 23
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症流行前後における関東地方在住の一般市民の運動実施割合の比較：運動種目別の解析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 運動疫学研究	6. 最初と最後の頁 163-171
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24804/ree.2107	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 仁田道夫	4. 巻 -
2. 論文標題 最低賃金制の回顧	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 月刊労働調査	6. 最初と最後の頁 4-10
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 鈴木富美子・佐々木尚之	4. 巻 28
2. 論文標題 ダイアド・データによる夫婦関係の把握	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 社会と調査	6. 最初と最後の頁 13-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村真由美	4. 巻 341
2. 論文標題 青少年期における子どもとの接触経験は出生意欲を高めるのか? - 既婚女性を対象としたアンケート調査の結果から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 富山大学経済学部 Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村真由美	4. 巻 342
2. 論文標題 規範意識・性格傾向と出生意欲・死生観・自己効力感・伝統指向・満足遅延耐性に注目して	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 富山大学経済学部 Working Paper	6. 最初と最後の頁 1-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中村真由美	4. 巻 67
2. 論文標題 富山パラドックス なぜ富山県では女性就業率が高いの女性管理職率は低いのか?	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 富山経済論集	6. 最初と最後の頁 191-207
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 穴戸邦章	4. 巻 147
2. 論文標題 つながる力 シニア期の人間関係	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 一般社団法人地域社会ライフプラン協会編 『ALPS』	6. 最初と最後の頁 8-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Okubo Ryo, Yoshioka Takashi, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, Okano Hiroki, Ikezawa Satoru, Tsuno Kanami, Murayama Hiroshi, Tabuchi Takahiro	4. 巻 287
2. 論文標題 Urbanization level and neighborhood deprivation, not COVID-19 case numbers by residence area, are associated with severe psychological distress and new-onset suicidal ideation during the COVID-19 pandemic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Affective Disorders	6. 最初と最後の頁 89-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.jad.2021.03.028	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 Kataoka Aoi, Fukui Keisuke, Sato Tomoharu, Kikuchi Hiroyuki, Inoue Shigeru, Kondo Naoki, Nakaya Tomoki, Ito Yuri	4. 巻 14
2. 論文標題 Geographical socioeconomic inequalities in healthy life expectancy in Japan, 2010-2014: An ecological study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The Lancet Regional Health - Western Pacific	6. 最初と最後の頁 100204
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.lanwpc.2021.100204	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Nagata Shohei, Adachi Hiroki M., Hanibuchi Tomoya, Amagasa Shiho, Inoue Shigeru, Nakaya Tomoki	4. 巻 24
2. 論文標題 Relationships among changes in walking and sedentary behaviors, individual attributes, changes in work situation, and anxiety during the COVID-19 pandemic in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Preventive Medicine Reports	6. 最初と最後の頁 101640
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.pmedr.2021.101640	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 安本晋也・中谷友樹	4. 巻 73
2. 論文標題 オープンスペースへの認知的近接性が健康格差に与える影響 大阪府の事例	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人文地理	6. 最初と最後の頁 445-465
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4200/jjhg.73.04_445	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 穴戸邦章・吉野智美	4. 巻 2
2. 論文標題 高齢者の地域社会への包摂に関する研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 大阪商業大学共同参画研究所紀要	6. 最初と最後の頁 194-206
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hanibuchi Tomoya, Yamauchi Masakazu	4. 巻 10
2. 論文標題 Central Tokyo 's Low Response Rate to the 2015 Population Census and Its Related Factors	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 SAGE Open	6. 最初と最後の頁 1-9
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1177/2158244020963080	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 吉野智美・岩井紀子	4. 巻 19
2. 論文標題 EASS 2020 Health Moduleの作成	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本版総合的社会調査共同研究拠点 研究論文集	6. 最初と最後の頁 51-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 林萍萍	4. 巻 19
2. 論文標題 日本人の一般的信頼感、内集団・外集団への信頼感の規定要因に関する検討 JGSS-2012データを用いた分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本版総合的社会調査共同研究拠点 研究論文集	6. 最初と最後の頁 11-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 林萍萍	4. 巻 17
2. 論文標題 東アジアにおける友人の選択基準 EASS 2008を用いた日本、韓国、中国、台湾の比較分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 次世代人文社会研究	6. 最初と最後の頁 155-175
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金政芸	4. 巻 25
2. 論文標題 階層地位と一般的信頼 相対的な階層地位を用いた分析の試み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 同志社社会学研究	6. 最初と最後の頁 97-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 孟哲男	4. 巻 62(4)
2. 論文標題 中国都市部における既婚女性の労働参加の決定要因 CGSS 2006-2015の個票データに基づく実証分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 桃山学院大学経済経営論集	6. 最初と最後の頁 379-395
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松田茂樹・佐々木尚之	4. 巻 32(2)
2. 論文標題 アジア諸国における教育と少子化の関連についての理論的背景	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 家族社会学研究	6. 最初と最後の頁 169-172
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 MATSUDA Shigeki & SASAKI Takayuki	4. 巻 45
2. 論文標題 Deteriorating Employment and Marriage Decline in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Comparative Population Studies	6. 最初と最後の頁 395-416
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.12765/CPoS-2020-22	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 天笠志保・荒神裕之・門間陽樹・鳥取伸彬・井上茂	4. 巻 23
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症流行下における身体活動研究の現状：デジタル技術の革新・普及による身体活動研究の方法論的特徴とその知見	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 運動疫学研究	6. 最初と最後の頁 5-14
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24804/ree.2015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fukushima Noritoshi, Amagasa Shiho, Machida Masaki, Kikuchi Hiroyuki, Inoue Shigeru	4. 巻 69
2. 論文標題 Measurement and assessment of workers' physical activity and sedentary behavior	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Physical Fitness and Sports Medicine	6. 最初と最後の頁 447-455
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7600/jspfsm.69.447	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Machida Masaki, Nakamura Itaru, Saito Reiko, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, Takamiya Tomoko, Odagiri Yuko, Fukushima Noritoshi, Kikuchi Hiroyuki, Amagasa Shiho, Kojima Takako, Watanabe Hidehiro, Inoue Shigeru	4. 巻 -
2. 論文標題 How frequently do ordinary citizens practice hand hygiene at appropriate moments during the COVID-19 pandemic in Japan	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Infectious Diseases	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.7883/yoken.JJID.2020.631	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kikuchi Hiroyuki, Machida Masaki, Nakamura Itaru, Saito Reiko, Odagiri Yuko, Kojima Takako, Watanabe Hidehiro, Fukui Keisuke, Inoue Shigeru	4. 巻 30
2. 論文標題 Changes in Psychological Distress During the COVID-19 Pandemic in Japan: A Longitudinal Study	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Epidemiology	6. 最初と最後の頁 522-528
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2188/jea.JE20200271	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Machida Masaki, Nakamura Itaru, Saito Reiko, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, Takamiya Tomoko, Odagiri Yuko, Fukushima Noritoshi, Kikuchi Hiroyuki, Amagasa Shiho, Kojima Takako, Watanabe Hidehiro, Inoue Shigeru	4. 巻 96
2. 論文標題 Changes in implementation of personal protective measures by ordinary Japanese citizens: A longitudinal study from the early phase to the community transmission phase of the COVID-19 outbreak	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Infectious Diseases	6. 最初と最後の頁 371-375
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijid.2020.05.039	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Machida Masaki, Nakamura Itaru, Saito Reiko, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, Takamiya Tomoko, Odagiri Yuko, Fukushima Noritoshi, Kikuchi Hiroyuki, Amagasa Shiho, Kojima Takako, Watanabe Hidehiro, Inoue Shigeru	4. 巻 17
2. 論文標題 Incorrect Use of Face Masks during the Current COVID-19 Pandemic among the General Public in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Environmental Research and Public Health	6. 最初と最後の頁 6484
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/ijerph17186484	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 天笠 志保、松下 宗洋、田島 敬之、香村 恵介、中田 由夫、小熊 祐子、井上 茂、岡 浩一朗	4. 巻 -
2. 論文標題 「身体活動を支える8つの投資」日本語版の紹介	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 運動疫学研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.24804/ree.2102	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Machida Masaki, Nakamura Itaru, Kojima Takako, Saito Reiko, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, Takamiya Tomoko, Odagiri Yuko, Fukushima Noritoshi, Kikuchi Hiroyuki, Amagasa Shiho, Watanabe Hidehiro, Inoue Shigeru	4. 巻 9
2. 論文標題 Acceptance of a COVID-19 Vaccine in Japan during the COVID-19 Pandemic	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Vaccines	6. 最初と最後の頁 210
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/vaccines9030210	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kanamori Satoru, Kondo Naoki, Takamiya Tomoko, Kikuchi Hiroyuki, Inoue Shigeru, Tsuji Taishi, Kai Yuko, Muto Go, Kondo Katsunori	4. 巻 63
2. 論文標題 Social participation and mortality according to company size of the longest held job among older men in Japan: A 6 year follow up study from the JAGES	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Occupational Health	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/1348-9585.12216	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kikuchi Hiroyuki, Machida Masaki, Nakamura Itaru, Saito Reiko, Odagiri Yuko, Kojima Takako, Watanabe Hidehiro, Inoue Shigeru	4. 巻 7
2. 論文標題 Development of severe psychological distress among low-income individuals during the COVID-19 pandemic: longitudinal study	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 The British Journal of Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1192/bjo.2021.5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Fukushima Noritoshi, Amagasa Shiho, Kikuchi Hiroyuki, Kataoka Aoi, Takamiya Tomoko, Odagiri Yuko, Machida Masaki, Oka Koichiro, Owen Neville, Inoue Shigeru	4. 巻 92
2. 論文標題 Associations of older adults' excursions from home with health-related physical activity and sedentary behavior	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Archives of Gerontology and Geriatrics	6. 最初と最後の頁 104276
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.archger.2020.104276	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 菊池宏幸・天笠志保・井上茂	4. 巻 56 (1)
2. 論文標題 身体活動と循環器疾患	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本循環器病予防学会誌	6. 最初と最後の頁 7-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Machida Masaki, Nakamura Itaru, Saito Reiko, Nakaya Tomoki, Hanibuchi Tomoya, Takamiya Tomoko, Odagiri Yuko, Fukushima Noritoshi, Kikuchi Hiroyuki, Kojima Takako, Watanabe Hidehiro, Inoue Shigeru	4. 巻 94
2. 論文標題 Adoption of personal protective measures by ordinary citizens during the COVID-19 outbreak in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 International Journal of Infectious Diseases	6. 最初と最後の頁 139-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.ijid.2020.04.014	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計26件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 8件)

1. 発表者名 吉野智美・岩井紀子・佐々木尚之
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染症による日本人の生活と意識への影響 - JGSS-2021調査の結果概要 -
3. 学会等名 第94回日本社会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金政芸
2. 発表標題 日本人の対外意識の構造 - JGSS-2017G/2018Gを用いた社会的距離のパターン分析 -
3. 学会等名 第94回日本社会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐野和子
2. 発表標題 職業構造の変化と女性の中スキル職 - 2000年代半ば以降の変化に関する分析 -
3. 学会等名 第94回日本社会学会大会
4. 発表年 2021年



1. 発表者名 穴戸邦章・岩井紀子
2. 発表標題 大規模災害発生のリスク認知と原子力政策に対する態度の変化 - JGSS-2008/2010/2012/2015/2018/2021の比較を通して -
3. 学会等名 第94回日本社会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金政芸
2. 発表標題 既婚女性の階層地位は何によって決定されるのか - JGSS 累積データを用いた分析 -
3. 学会等名 JGSS研究発表会2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐野和子
2. 発表標題 増える仕事と減る仕事 - JGSS 累積データを用いたトレンド分析 -
3. 学会等名 JGSS研究発表会2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 佐々木尚之
2. 発表標題 JGSS累積データにみる未婚者の特徴とその変化
3. 学会等名 JGSS研究発表会2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 孟哲男・岩井紀子
2. 発表標題 新型コロナウイルス感染拡大前後の回収率とその要因 - JGSS-2017G/2018G と JGSS-2021 の比較を通して -
3. 学会等名 JGSS研究発表会2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 林萍萍・岩井紀子
2. 発表標題 コロナ禍における日本人の不安感・信頼感と政策に対する評価 - JGSS-2021 のデータを基に -
3. 学会等名 JGSS研究発表会2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 吉野智美
2. 発表標題 コロナ禍における日本人の孤独感とウェルビーイング - JGSS-2010とJGSS-2021 の比較分析 -
3. 学会等名 JGSS研究発表会2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 穴戸邦章
2. 発表標題 大規模災害発生のリスク認知と原子力政策に対する態度の変化 - JGSS-2008/2010/2012/2015/2018/2021の比較を通して -
3. 学会等名 JGSS研究発表会2022
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 林萍萍
2. 発表標題 一般的信頼感、内集団・外集団への信頼感の規定要因に関する日韓中台比較
3. 学会等名 日韓次世代学術フォーラム第18回国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐野和子
2. 発表標題 女性の就業と就学前教育への投資 - JGSSによる持続と変化に関する分析 -
3. 学会等名 日本家族社会学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐野和子
2. 発表標題 日本の教育システムと女性の進路分化 - 2000年以降の持続と変化に関する分析 -
3. 学会等名 第73回日本教育社会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SAN0, Kazuko
2. 発表標題 Japanese Women and Middle-Skill Jobs: Changing Occupational Structure and its Impact on Highly Educated Women
3. 学会等名 Society for Advancement of Socio-Economics(SASE) 33th Annual Conference（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 SANO, Kazuko
2. 発表標題 Japanese Pre-primary Education Systems and Mothers' Career Choices
3. 学会等名 The 27th Taiwan Forum on Sociology of Education (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 LIN, Pingping & SUGAWARA, Daichi
2. 発表標題 A comparative study between China and Japan on the mechanisms of self-compassion affecting emotional states and life satisfaction during the COVID-19 pandemic
3. 学会等名 中国文化心理学会2021全国大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井紀子・穴戸邦章
2. 発表標題 自然災害の被災経験・被災時期と災害発生のリスク認知と避難準備 - JGSS-2021を基に -
3. 学会等名 第8回震災問題研究交流会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 IWAI Noriko, MO Tetsuo
2. 発表標題 Harmonization of Background Variables for East Asian Social Survey
3. 学会等名 The International Conference on Social Science Methodology (RC33) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 中村真由美
2. 発表標題 司法制度改革が弁護士の仕事と家庭におけるジェンダー格差に与えた影響 - 『2008年調査』と『2019年調査』の比較から -
3. 学会等名 第94回日本社会学会大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 IWAI, Noriko
2. 発表標題 Changes of Family Values and Behavior in Four East Asian Societies based on EASS 2006 and EASS 2016
3. 学会等名 The International Conference on Changing Family Life in East Asia (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 YOSHINO, Satomi
2. 発表標題 Social Exclusion and Mental Health of Older People in East Asia: Comparison of China, Japan and Korea
3. 学会等名 IV ISA Forum of Sociology 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 NAKAMURA, Mayumi
2. 発表標題 Health Deprivation of Single Mothers in Japan
3. 学会等名 IV ISA Forum of Sociology 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Iwai, Hachiro
2. 発表標題 The Impacts of Wartime Mobilization on Forming the Postwar Stratification System in Japan: Based on the Reconstructed Life History Data of Social Stratification and Mobility Surveys
3. 学会等名 IV ISA Forum of Sociology 2021 (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐々木尚之
2. 発表標題 質問紙調査におけるダイアド・データ調査項目の検討
3. 学会等名 日本家族社会学会第30回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松田茂樹・佐々木尚之・梁凌詩ナンシー
2. 発表標題 新型コロナウイルスの感染拡大が出生意欲に与えた影響
3. 学会等名 第70回数理学会大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 岩井紀子・金政芸・高橋えり・瀬戸健太郎・由地莉子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター	5. 総ページ数 104
3. 書名 日本版総合的社会調査共同研究拠点 研究論文集 [ 20 ]	

1. 著者名 埴淵知哉	4. 発行年 2022年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 192
3. 書名 社会調査で描く日本の大都市	

1. 著者名 中村真由美	4. 発行年 2022年
2. 出版社 富山大学経済学部中村真由美専門ゼミナール社会調査実習2021年度報告書	5. 総ページ数 -
3. 書名 富山市の公共交通に関する研究 路面電車南北接続事業の効果と評価	

1. 著者名 岩井紀子・宍戸邦章	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 118
3. 書名 データで見る東アジアの社会的ネットワークと社会関係資本	

1. 著者名 岩井紀子・佐々木尚之	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS 研究センター	5. 総ページ数 464
3. 書名 East Asian Social Survey EASS 2016 Family Module Codebook	



1. 著者名 岩井紀子・佐々木尚之・林萍萍・大橋正彦・吉野智美・貫田優子・孟哲男・萬成博・郭凱鴻・金政芸・竹本圭佑・前川尚澄・中澤	4. 発行年 2021年
2. 出版社 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS 研究センター	5. 総ページ数 126
3. 書名 日本版総合的社会調査共同研究拠点 研究論文集 [ 19 ]	

1. 著者名 Iwai, Noriko & YOSHINO, Satomi in IMAIZUMI, Tadashi, NAKAYAMA, Atsuh, & YOKOYAMA, Satoru(Eds).	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 488
3. 書名 Advanced Studies in Behaviormetrics and Data Science, Chapter25, Pitfalls in the Construction of Response Scales in Cross-Cultural Surveys: An Example from East Asian Social Survey	

1. 著者名 宍戸邦章 in 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 中央法規出版	5. 総ページ数 241
3. 書名 社会学と社会システム, 「世代」	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター 研究論文集  <a href="https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_top.html#20">https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_top.html#20</a></p> <p>日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター 研究発表会  <a href="https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_colloquium.html">https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_colloquium.html</a></p> <p>日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター 共同利用実績  <a href="https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_achievement.html">https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_achievement.html</a></p> <p>日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター コードブック  <a href="https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_codebook.html">https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_codebook.html</a></p> <p>JGSSデータダウンロードシステム (JGSSDDS)  <a href="https://jgssdds.repo.nii.ac.jp">https://jgssdds.repo.nii.ac.jp</a></p> <p>日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター 研究論文集  <a href="https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_top.html#19">https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_top.html#19</a></p> <p>日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター 研究発表会  <a href="https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_colloquium.html">https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_colloquium.html</a></p> <p>日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター 共同利用実績  <a href="https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_achievement.html">https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_achievement.html</a></p> <p>日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター コードブック  <a href="https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_codebook.html">https://jgss.daishodai.ac.jp/research/res_codebook.html</a></p>
---

## 6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	井上 茂  (Inoue Shigeru)  (00349466)	東京医科大学・医学部・教授    (32645)	
研究分担者	吉野 智美  (Yoshino Satomi)  (00806599)	大阪商業大学・JGSS研究センター・研究員・ポストドクター    (34410)	
研究分担者	宍戸 邦章  (Shishido Kuniaki)  (10460784)	大阪商業大学・公共学部・教授    (34410)	
研究分担者	中谷 友樹  (Nakaya Tomoki)  (20298722)	東北大学・環境科学研究科・教授    (11301)	
研究分担者	金 政芸  (Kim Jeongwoon)  (20840333)	大阪商業大学・JGSS研究センター・研究員・ポストドクター    (34410)	
研究分担者	中村 真由美  (Nakamura Mayumi)  (30401269)	富山大学・学術研究部社会科学系・教授    (13201)	
研究分担者	佐々木 尚之  (Sasaki Takayuki)  (30534953)	大阪商業大学・公共学部・准教授    (34410)	
研究分担者	岡邊 健  (Okabe Takeshi)  (40356209)	京都大学・教育学研究科・教授    (14301)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	埴淵 知哉  (Hanibuchi Tomoya)  (40460589)	東北大学・環境科学研究科・准教授    (11301)	
研究分担者	本庄 かおり  (Honjo Kaori)  (60448032)	大阪医科薬科大学・医学部・教授    (34401)	
研究分担者	孟 哲男  (Mo Tetsuo)  (60761690)	大阪商業大学・JGSS研究センター・研究員    (34410)	
研究分担者	仁田 道夫  (Nitta Michio)  (70114600)	東京大学・社会科学研究所・名誉教授    (12601)	
研究分担者	佐野 和子  (Sano Kazuko)  (70909960)	大阪商業大学・JGSS研究センター・研究員    (34410)	
研究分担者	岩井 八郎  (Iwai Hachiro)  (80184852)	京都大学・教育学研究科・名誉教授    (14301)	
研究分担者	林 萍萍  (Lin Pingping)  (80825852)	大阪商業大学・JGSS研究センター・研究員・ポストドクター    (34410)	
研究分担者	谷岡 一郎  (Tanioka Ichiro)  (90227207)	大阪商業大学・公共学部・教授    (34410)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	沈 育萱 (Shen Yuhuan) (90963900)	大阪商業大学・JGSS研究センター・研究員  (34410)	
研究分担者	郭 凱鴻 (kaku Gaiko) (50879997)	大阪商業大学・JGSS研究センター・研究員  (34410)	
研究分担者	潘 建秀 (Pan Jianxiu) (70570141)	大阪商業大学・JGSS研究センター・研究員  (34410)	
研究分担者	孔 栄鍾 (Kong Youngjong) (60879998)	大阪商業大学・JGSS研究センター・研究員  (34410)	削除：2021年2月4日

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 JGSS研究発表会2022	開催年 2022年～2022年
国際研究集会 JGSS研究発表会2021	開催年 2021年～2021年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
中国	中国人民大学社会学部	中国人民大学National Survey Research Center	
韓国	成均館大学社会学部	成均館大学Survey Research Center	ソウル大学校
台湾	中央研究院社会学研究所	中央研究院人文社会科学研究所	
米国	NORC at University of Chicago		
ヨーロッパ	European Social Survey (ESS ERIC)		